令和６年度

宮崎県学校図書館教育研究大会
県 北 大 会 研 究 紀 要

大会主題

「豊かな心と学びを育む学校図書館」

美郷町 御田祭

日向市 クルスの海

延岡市 愛宕山からの夜景

高千穂町 真名井の滝

期　日　令和6年8月8日(木)

会　場　延岡市カルチャープラザのべおか
　　延岡市社会教育センター

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

あ い さ つ

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会
会　長　　有　田　勝　則

この度、県内各地より多くの皆様のご参加をいただき、令和６年度宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会を開催できますことについて心より感謝を申し上げます。

さて、今後の学校図書館の活用の在り方につきましては、新学習指導要領総則の中で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実する」ことがうたわれております。また、特別活動の学級活動の中で、一人一人のキャリア形成と自己実現のために「現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること」と明記されており、自己実現を図る上でも図書館等を活用する重要性がうたわれています。

また、学校においては、このような図書館教育に期待されている役割が最大限に発揮できるようにすることが重要であり、学校図書館が児童・生徒にとって落ち着いて読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境として整えられるように努めることが大切であると考えられます。平成２８年１１月に文部科学省より出された「学校図書館ガイドライン」においても、「学校は、学習指導要領等を踏まえ、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利用し、児童・生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが望ましい。」とされ、校長のリーダーシップの下、学校図書館に関する全体計画に基づき、教職員が連携して、計画的・組織的に学校図書館の運営に当たっていくことが求められています。

そのような中、これまで本学校図書館部会では、学校図書館の役割の充実や各校における読書活動の推進に向け、県内各地区で、様々な研究や取組を行ってまいりました。今回の県北大会では、大会主題を「豊かな心と学びを育む学校図書館」として掲げ、６つの分科会を設定し、学校図書館の活用や各校における読書活動の推進、地域や関連機関との連携等の視点から各地区の発表とそれに伴う協議を行います。これらを通して、今後、県内各学校図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実がさらに図られますことを心より願っております。

最後に、本大会の開催に当たり、準備や大会の運営にも携わっていただいている開催地区の関係者の皆様、忙しい中、研究を進めてくださった発表者の皆様に心より、お礼を申し上げます。加えて、これまでご指導・ご支援を賜りました宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、その他関係の皆様方に深く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

令和6年度 宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会

1 期　日　　令和6年8月8日（木）

2 会　場　　**延岡市カルチャープラザのべおか（宮崎県延岡市本小路 39 番地 1　電話 0982-34-6549）**
延岡市社会教育センター　　（宮崎県延岡市本小路 39-1　　電話 0982-22-7032）

3 主　催　　宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

4 後　援　　宮崎県教育委員会　延岡市教育委員会　日向市教育委員会 五ヶ瀬町教育委員会
門川町教育委員会　　美郷町教育委員会　　諸塚村教育委員会　日之影町教育委員会
椎葉村教育委員会　高千穂町教育委員会

5 大会主題　　**「 豊かな心と学びを育む学校図書館 」**

6 大会趣旨

学校図書館は、児童生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能を有している。また、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能も有している。さらに、学校図書館には変化する社会情勢を踏まえ、「児童生徒の心の居場所」、「家庭・地域における読書活動への支援」等の機能を果たすことも求められており、「教員の授業改善や資質の向上」の観点からの重要性も踏まえ、学校図書館が果たすべき役割は年々、多様化が進んでいるといえる。

現在、 宮崎県は「読書県づくりの推進」を掲げ、行政、地域、図書館、学校、家庭等が連携を図りながら全県的な取組を行っている。

このような中、本研究大会では今後の学校図書館のあるべき姿、読書教育の在り方等について協議を深めることで本主題に迫っていきたいと考える。

7 日程

時 間	13:00 ～13:30	13:30 ～13:50	14:05 ～ 16:05	16:05 ～16:15
分	（30）	（20）	（120）	（10）
内 容	受 付	開会行事	研究発表・研究協議 （休息を含む）	閉会行事
会 場	延岡市カルチャープラザのべおか	延岡市カルチャープラザのべおかハーモニーホール	延岡市社会教育センター	延岡市社会教育センター

8 分 科 会（14:05～16:05）

分科	協議題	発表者	司会者	記録者	指導助言者
第１ 分科会	A 魅力的な学校図書館づくり	加納小学校 教諭 本田妃佐喜 穂北中学校 教諭 中里美紀	北方学園 教頭 金澤由紀子	北方学園 教諭 松本 沙織	県教育庁北部教育事務所 指導主事 大田川真志
第2 分科会	B 学習情報センターとしての学校図書館の活用	通山小学校 教諭 佐野志織 永久津中学校 教諭 松下良子	土々呂中学校 教頭 大石 彰	東小学校 教諭 村田 葵	県教育庁中部教育事務所 指導主事 有田 雅代
第3 分科会	C 学校における読書指導	山之口小学校 教諭 梅元杏華 西岳中学校 教諭 稲元 愛	東小学校 教頭 上米良 剛	南方中学校 教諭 舟津 淳子	県教育庁南部教育事務所 指導主事 前田 雅樹
第4 分科会	D 特別支援教育における読書活動	学校図書司書 多田明子 南郷中学校 教諭 外林義朗	恒富小学校 教頭 武田啓宏	南中学校 教諭 中田 晃喜	県教育庁北部教育事務所 指導主事 緒方 宏文
第5 分科会	E 学校司書・司書教諭の役割	国富小学校 教諭 河野歩美 広瀬中学校 教諭 有田桂子	西小学校 教頭 島 和	黒岩小学校 教諭 木下奈緒子	県教育庁義務教育課 指導主事 川﨑 優也
第6 分科会	F 地域・家庭・公共図書館との連携	北川小学校 教諭 泉美麻里 島野浦学園 教諭 甲斐聖佳 宮崎商業高校 教諭 厚地晃子	東海東小学校 教頭 黒木正大	緑ヶ丘小学校 教諭 甲斐由利子	県教育研修センター 社会教育主事 楠本 将夫

【分科会の時間配分】

	進行 説明	発表1 （質疑含む）	発表2 （質疑含む）	発表3 （質疑含む）	休息	協議	指導 講評
第１～5 分科会	14:05～ 14:10	14:10～ 14:35	14:35～ 15:00		15:00～ 15:10	15:10～ 15:55	15:55～ 16:05
第６ 分科会	14:05～ 14:10	14:10～ 14:30	14:30～ 14:50	14:50～ 15:10	15:10～ 15:20	15:20～ 15:55	15:55～ 16:05

県北大会　発表者一覧

	研究項目・内容	発表者	ページ
第1分科会	「魅力的な学校図書館づくり」 ～各学校における読書指導の実践を通して～	宮崎市立加納小学校 （日向市立財光寺南小学校） 教諭　本田妃佐喜	5～6
	「魅力的な学校図書館づくり」 ～豊かな心と学びを育む学校図書館～	西都市立穂北中学校 教諭　中里　美紀	7～8
第2分科会	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～教科の学習内容を深めるための 学校図書館利用を通して～	川南町立通山小学校 教諭　佐野　志織	9～10
	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～学習情報センターとしての学校図書館の活用～	小林市立永久津中学校 教諭　松下　良子	11～12
第3分科会	「学校における読書指導」 ～学校における読書指導を通して～	都城市立山之口小学校 教諭　梅元　杏華	13～14
	「学校における読書指導」 ～１年間を見通した計画的な読書指導を通して～	都城市立西岳中学校 教諭　稲元　愛	15～16
第4分科会	「特別支援教育における読書活動」 ～競い合う読書から認め合い・学び合う読書へ～ Well-being　特別支援教育の視点で、 学校図書館の機能をＯＮにする	（株）共立ソリューションズ 学校図書司書　多田　明子	17～18
	「特別支援教育における読書活動」 ～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実～	日南市立南郷中学校 （日南市立北郷小中学校） 教諭　外林　義朗	19～20
第5分科会	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と学校司書との連携の在り方～	宮崎市立国富小学校 教諭　河野　歩美	21～22
	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と読書活動アシスタント との連携の在り方～	宮崎市立広瀬中学校 教諭　有田　桂子	23～24
第6分科会	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域･家庭･公共図書館との連携を通して～	延岡市立北川小学校 教諭　泉美　麻里	25～26
	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域･家庭･公共図書館との連携を通して～	延岡市立島野浦学園 教諭　甲斐　聖佳	27～28
	「地域･家庭･公共図書館との連携」 ～「本」に関わるボランティアを通して～	宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭　厚地　晃子	29～30

第６分科会　「豊かな心と学びを育む学校図書館」
～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～

延岡市立北川小学校　教諭　泉美　麻里

１　はじめに

本校は県の北部に位置し、清流北川をたたえた自然と共存する地域である。初夏にはホタルが乱舞し、鮎をはじめとする生き物を間近に見られることで有名である。

本校は児童数１０５名の小規模校であり、「進んで学び　心豊かで　たくましく　ひとりだちできる児童の育成」という学校の教育目標のもと自信や自己肯定感をもって行動できる児童の育成をめざして、教育活動を推進している。地域とともに児童を育む学校づくりをめざして実施した「みんなの幸せのためにしゃべろう会」（地域・家庭・学校のフリートーク）で出された意見の中には、読書好きの児童に育って欲しいという願いもあった。

２　主題設定の理由

本市は、めざす子ども像に「自他の幸せのために学び行動する子どもの育成」（幸動）を掲げ、日々教育活動を推進している。その１０の基本方針の中の一つに豊かな心の育成があり、施策に読書教育の推進が挙げられている。読書活動が基礎学力の土台を築き、心を安定させることは以前から言われているものの、読書よりもメディアへの興味が高く、読書の楽しみを感じられている児童は少ない。また、学校で読書をする時間も限られている。そんな中、児童が少しでも読書に親しみ、本を好きになってくれるようにと様々な読書活動を実施しているが十分とは言えない。充実した読書活動を推進するためには、関係機関との連携が必要であることを再認識した。

そこで、地域・家庭、公共図書館、各学校の強みを生かし、情報を共有することは、児童の読書意欲を高め、豊かな心の醸成につながると考え本主題を設定した。

３　研究目標

○　地域・家庭、公共図書館及び各学校との連携を深め、児童の読書への意欲や関心を高める読書活動を行うことを通して豊かな心の素地を培う。

４　研究の仮説

○　学校図書館を核として、地域・家庭・公共図書館、また、他校の図書館教育の情報を共有し、様々な角度からアプローチしていけば、児童は読書への興味・関心を高め読書を通して豊かな心を育む素地が培われるだろう。

５　研究の実際

（１）他校との図書館教育の共有

ア　学校図書館の役割は大きく、その重要性も高い。しかし、図書館教育を担う図書主任は多忙感が強く、運営に困難さを感じている図書主任も少なからずいる。そこで、図書主任会で図書館教育運営についての取組を共有した。また、市の一時掲載フォルダに作成した文書や資料を保存することで誰でも活用できるようにした。

（２）家庭との連携

ア　保護者への啓発

読書の大切さを保護者に啓発するために全校懇談で「もっと本のある環境を」と題してプレゼンを行い、学校が読書を推進していることを周知する機会とした。

イ　家庭での読書活動の推進

「火曜日は読書の日」を設定し通常の宿題を読書に替えた。読書の記録を残し、感想等を放送や掲示で伝えるようにした。自分の感想や意見をもつ機会ともなるようにした。アンケートでは、８割の児童がこの取組を楽しみにしている。

ウ　学校での取組や新刊の紹介等の情報を掲載した「図書館だより」の発行

図書館まつりの内容やその様子、図書ボランティアの募集・読書の日の周知など図書館教育の情報を家庭と共有できるようにした。

（３）地域との連携

ア　読み聞かせボランティア

図書ボランティアと読み聞かせボランティアをＰＴＡ活動の中に位置付けている。図書ボランティアは、図書委員会の児童の補助や本の整理、修理等を行う。読み聞かせボランティアは朝の時間に読み聞かせを実施している。月に１回～２回程度ではあるが、児童は楽しみにしている。

イ　「ととろ三人の会」の語り・読み聞かせ

年に１度「ととろ三人の会」の方に読み聞かせ等のご協力をいただいている。学年部の実態に合わせて絵本の読み聞かせや科学雑誌の紹介、そしてお話の語りを聞かせていただいている。昨年度も外国の少し怖いお話を引き込ませるような独特の語りで聞かせてくださり、児童も身を乗り出して聞き入っていた。

（４）公共図書館との連携

ア　移動図書館や資料センターとしての役割

市立図書館の移動図書館「せせらぎ号」が月に一度来校することを児童は心待ちにしている。学校にはない本が多数あり、貸出数も年間２７３８冊にのぼる。また、国語学習や総合的な学習の時間での資料等を団体貸し出しで利用している。

イ　図書館まつりでの読書活動支援

各学校で開催されることの多い「図書館まつり」において、読み聞かせやアニマシオン等で読書の楽しさを児童に伝えている。専門性を生かし、児童の興味関心を高める取組である。これは、職員にとっても本の紹介等の技術を知るよい機会となっている。児童の感想によるとアニマシオンの取組はたいへん好評であった。

6　成果と課題

（１）　成果

○　地域や公共図書館の協力を得ながら本に親しむ活動を充実することは、児童の読書意欲を高めることができた。

○　家庭での読書時間を確保する取組により、進んで読書を行い読書の楽しさに気付く児童が増えた。

（２）　課題

●　読書を好む児童と苦手感をもつ児童との二極化を解消する必要がある。

●　家庭でのメディアコントロールと読書時間の確保について、児童の意識の変容と家庭の協力が必要である。

7　おわりに

今回の研究を通して、地域や家庭、公共図書館との連携の必要性を再認識することができた。互いのもつ思いや専門性を共有し、今後も児童が「読書が楽しい」と感じる読書活動を更に充実させたい。

第６分科会「豊かな心と学びを育む学校図書館」
～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～

延岡市立島野浦学園　後期課程　教諭　甲斐　聖佳

１　はじめに

延岡市には、小学校２６校、中学校１５校、義務教育学校１校があり、図書主任会のおりに各学校の取組や実践について情報交換しながら、図書館教育を進めている。また、本市では、目指す子ども像に「幸動　自他の幸せのために学び行動する子どもの育成」を掲げている。その基本方針の中に「豊かな心の育成」があり、主な施策に「読書教育の推進」が挙げられており、地域や家庭、学校が連携を深めながら、乳幼児期から切れ目のない継続的な読書活動の推進を図っている。

２　主題設定の理由

生活環境の変化や、ゲーム・ＳＮＳなどのメディアに多くの時間を割く昨今、本市でも児童・生徒の読書離れが問題となっている。学習指導要領にもあるように、児童生徒の自主的・自発的な読書活動の充実が求められている。また、中学校国語科では、改定の内容として「読書指導の改善・充実」が明記され、児童生徒が読書することは、「人生をより豊かなものにするだけでなく、言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊かにする」うえで極めて重要である。そのためには、子どもたちが本を読むことで、楽しさを味わったり、新しい知識や事実を知ったり、心をふるわす感動を得たり、新しい語彙を習得したりする場に出会えるように、教師が意図的に仕組んでいくことが必要である。そこで、学校が地域や家庭、公共図書館と連携しながら、本に親しみを持てる仕組みを増やしていくことで、読書に興味関心を持ち、自発的に本を読む時間を増やし、生徒の豊かな心と学びを育むことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

３　研究目標

地域・家庭・公共図書館と連携して読書活動を推進することで、生徒に読書への興味関心をもたせ、読書教育の充実を図る。

４　研究の仮説

地域・家庭・公共図書館と連携して推進すれば、生徒に読書への興味関心をもたせ、豊かな心や学びを育むことができるのではないか。

５　研究の実際

（１）　岡富中学校での延岡市立図書館を活用した「ビブリオバトル」への取組

岡富中学校では、市立図書館と連携し、「ビブリオバトル講習・実演」を行った。市立図書館職員にビブリオバトルについて説明してもらい、図書館職員代表１名、中学校生徒代表２名で実際にビブリオバトルを行った。事後指導として、全校生徒対象に国語の授業でビブリオバトルを行い、学年代表が文化祭で全校決勝を行った。

チャンプ本を決めることで生徒が本当に紹介したい本を選ぶこととなり、読書に親しむきっかけになった。また、幅広いジャンルから紹介されるため、自分がいつも手にしない分野の本へ興味をもたせた。さらに、ビブリオバトルで紹介された本を学校図書館に入れると、休み時間に足を踏み入れる生徒が増えた。図書館職員の方が実演により、ライブ感のある聞き手の興味を引き付ける紹介の仕方に感銘を受け、自身の発表の参考とした生徒もおり、深い学びとなった。

（２）　北川中学校での延岡市立図書館を活用した「ＰＯＰ作成」への取組

北川中学校では、中学１年生の国語の単元「読書を楽しむ」でＰＯＰ作りを行った。本を選ぶ際に市立図書館を訪問して紹介する本を選んだ。訪問時に図書館主催のＰＯＰ展が開催されていたので、それらを参考にしてレイアウトを考え、後日学校で仕上げ校内掲示板に作品を掲示した。日頃訪れることのない公共施設での活動に緊張しながらも意欲的に取り組むことができた。

（３）　旭中学校での延岡市立図書館の「絵のレプリカ」を活用した授業での取組

旭中学校では、市立図書館からルネサンス期の絵画のレプリカ２点（レオナルド・ダ・ヴィンチの『モナ・リザ』とサンドロ・ボッティチェリの『春（ラ・プリマヴェーラ）』）を借用し、中学２年生の国語の単元「君は『最後の晩餐』を知っているか」の導入の時間でレプリカを紹介・展示した。また、学校図書館にある美術関連の本も合わせて紹介した。

実物に近い物を見ることで、本文に興味・関心をもたせることをねらいとした。生徒たちは、教科書と同じ絵画が目の前にあることに驚いていた。レプリカであることは伝えたが、立派な額縁に入っていることもあり、一瞬「まさか本物？」と思った生徒もいたようだ。友達と話しながら細部まで観察することができ、興味・関心をもって本文を読むことにつながった。レプリカや資料を見せることで、学校図書館への興味や読書の範囲を広げることにつながったと考える。

（４）　島野浦学園での地域・家庭と連携した「親子読書」への取組

島野浦学園では、昨年度から６月と１２月に親子で読書する週間を設定している。四つのコースから選択し、家庭での読書に取り組ませた。

ア　保護者が子どもに読み聞かせをする
イ　子供が家族に読み聞かせをする
ウ　場や時間を共有して別々に本を読む
エ　別々に本を読み感想を共有しあう

児童生徒から「あんまり本を読まないので、いい経験ができた。家族で触れ合う時間がとても楽しかった。」「お父さん、お母さんと本を読むのは楽しかった。この時間が増えるといいと思った。」などの感想が多く、普段あまり読書に興味を示していない児童生徒が、読書は楽しいと思えるきっかけになっている。保護者からも、「子どもと一緒に読書をする時間はとてもいい時間でした。なかなかこんな時間はとれないけど、普段の生活の中に取り入れようと思います。」など取組に対する前向きな意見が多く、家庭で読書に親しむ時間を持つ環境づくりを促進しており、親子で豊かな心を育む取組となった。また、島野浦には公共図書館が無いため、今回の取組により児童生徒だけでなく、保護者も学校図書館に本を借りに来ていた。地域が学校図書館を身近に感じられるような活動にもつながっている。

６　成果と課題

（１）　成果

○　日常的に本を読む習慣が少ない児童生徒も活動中は、読書が楽しいと思えたり自主的に活動に取り組めたりし、図書館や読書への興味関心を持つ児童生徒が増えた。
○　普段なかなか訪れない市立図書館に足を運んだり、図書館の資料活用や職員と活動することにより、図書館がより身近な場所になった。
○　取組前より取組後の学校図書館の貸し出し冊数が増え、読書量が増加し、少しずつではあるが図書館利用の活性化も見られるようになった。

（２）　課題

●　取組により、読書への関心は高まったが読書の習慣化までには至っていない。豊かな心と学びを育むためには、図書のイベント活動として終わるのではなく、日常的な読書活動につなげていく必要がある。

７　おわりに

今回の研究を通して、地域や家庭、市立図書館と連携して読書活動を進めることで、児童生徒の読書に対する興味関心が高まることが分かった。日常における読書活動が進むよう、学校・地域・家庭・公共図書館等の様々な機関が今後も連携・協力して、更なる取組を工夫していきたい。

第６分科会　「地域・家庭・公共図書館との連携」
～「本」に関わるボランティアを通して～

宮崎県立宮崎商業高等学校　教諭　厚地　晃子

1　はじめに

本校は、宮崎県の中心部に位置する、商業マネージメント科、情報ソリューション科、グローバル経済科の３学科、計21クラス、全校生徒数765名の専門高校である。創立105年目を迎え、一昨年の学科改正により４学科から３学科になった。検定取得やスポーツ（6競技が県の強化指定を受けている）に全力で励む生徒の姿が見られる。

2　主題設定の理由

２年前より「Book Picnic」の運営に協力する機会をいただき、本校図書委員を中心に活動を行ってきた。さまざまな本に関わるボランティアがある中で、本校独自の取組を紹介したいと思い、このテーマに設定した。

3　研究目標

高校生が本を通じて地域ボランティアをする意義として、(1)社会貢献とコミュニティの発展への一助となること、(2)自己成長とコミュニケーション力の向上につながること、(3)進路学習の一環になること、(4)生涯を通じた読書活動の促進につながること、などを考える。校内での読書推進活動はもちろんのこと、地域や社会に目を向けた活動を通して、読書活動が個人の楽しみから社会貢献や自己成長の手段に変わることを実感して欲しい。

4　研究の仮説

「本」が地域の人々との交流を図るツールとなることを知り、他の人に「本」を紹介する経験をすることで、今後の読書の幅が広がり、本や読書に関する知識を深めるきっかけになるのではないだろうか。また、子どもたちや高齢者など異なる世代に対する支援活動を行うことで、社会全体の一員としての責任感が芽生えるとともに、地域社会への貢献を通じて自己成長を促すことができるのではないか。

5　研究の実際

ア　概要

「Book Picnic」は宮崎県立総合文化公園の敷地内で、本、レジャーシート、ハンモックを来園者に無料で貸出し、自然の中で読書を楽しんでもらう催しである。令和２年秋に「こどもと本をつなぐネットワーク」の有志の方々から始まり、当初は本とピクニックシートのみの貸出しだった。その後、文化公園を管理している株式会社馬原造園建設が主催（県立図書館共催）となり、「緑と本に親しんでもらう」ことをコンセプトに、ハンモックの貸出も始めた。春（5月）と秋（９月もしくは10月）の年2回開催される。本校は令和４年の秋から、運営や受付、読み聞かせ活動、しおり・ミニ本作りの補助等にあたるボランティアに参加し始めた。そして、令和５年５月より、県立図書館とともに共催として活動を始めた。昨年９月の開催時は、本校音楽部による演奏会も実施し、緑と本と音楽のコラボレーションを来園者に楽しんでもらった。

イ　取組の実際

①　読み聞かせ活動

県立図書館よりマイラインを利用して借りた大型絵本や本校持ち込みの絵本を、生徒が読み聞かせをする。小さな子どもを連れた方や、小学生に好評だった。

② 本、シート、ハンモック貸出業務

本校図書館より生徒たちが選んだ本を貸出す。シート、ハンモックは番号札を発行し、時間を決めて利用してもらう。併せてアンケート用紙も配付する。

③ しおり・ミニ本作りの補助

しおりやミニ本を本校生徒の教示のもと、来園者に作成してもらう。

6 成果と課題

（1） 成果

今回４回目の「Book Picnic」への参加だったが、本校の役割が年々大きくなっているため、より責任ややりがいを感じた生徒が多かった。そのため、「させられる」のではなく、来園者に自発的に関わろうとする様子がさまざまな場面でうかがえた。例えば、来園者と話をしながら来園者好みの本を探したり、子どもたちの話を聞きながら読み聞かせの本を一緒に選んだり、園内を回って催しの案内をしたりする姿などである。

準備や運営、読み聞かせ、しおり・ミニ本作りを通して、さまざまな年代の方々とコミュニケーションができる機会となった。イベント後の生徒のアンケートからも、「やりがいがあった」、「普段学校では触れ合えない年代の人と触れ合えてよかった」、「小さい子どもとの接し方やどう説明すればわかりやすくなるかを考えることができた」、「子どもたちが楽しそうに話を聞いてくれて嬉しかった」、「将来、保育士になりたいので、この経験が役に立つと思う」など、上記「３ 研究目標」で述べた意義が果たされたと感じる。特に、異なる背景や年齢層の人々と交流できたことは、生徒たちにとって貴重な経験となったようだ。また来場者からは、「毎年楽しみにしている。」、「毎月定期的に開催して欲しい。」、「絵本を読んでもらっている間リラックスできた。ありがたい。」という声が多く聞かれ、生徒たちの社会貢献の意識が高まる機会となった。

（2） 課題

年に２回の実施だが、来場者のアンケートや声でも「毎月開催してほしい」との要望があった。生徒にも人気のあるボランティアなので、関係機関と検討して、実施回数を増やせないかと考える。屋外での催しのため、天気によって来場者数が変わる。雨天時でも楽しめる場所や内容を考えていきたい。

また、昨年秋に行った演奏会に引き続き、今年の秋にはポエトリーリーディングやスチールドラム演奏も併せて実施予定である。これからも読書活動と一緒に実施できる文化活動を生徒とともに考え、来園者の興味・関心を引きつける工夫をしていきたい。

7 おわりに

今後は「本」を通して自己成長につながるようなさまざまな活動をしていきたい。例えば、次のような活動への参加も検討している。

○ 図書館でのボランティア:図書の整理や貸出業務の手伝い、読書イベントのサポート。
○ 読書会の開催: 地域の人々を対象にした読書会の運営や、本の紹介、読み聞かせなど。
○ ブックドライブの企画: 不要になった本を集めて、必要な人や施設に寄付する活動。

一冊の「本」からつながる縁を大切にし、生涯を通して読書を楽しむことのできる生徒の育成にこれからも尽力したい。また、積極的にボランティア活動に参加する姿勢が、他の生徒や地域社会にとってポジティブなロールモデルとなることを願う。